

走り続けて3期12年



こいそ善彦 まだまだ あります 実績集



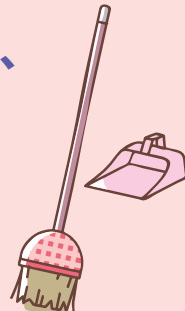
こいそメルマガ
こいそ善彦の日々の活動の様子
を皆さまに一番にお伝えします。

1 都職員の通勤手当のムダを、 年間34億円もカット

都職員の通勤手当を1カ月定期から割安な6か月定期に改革した結果、東京都で34億円の支出削減が実現。いまや国家公務員と全国の自治体も採用する制度となりました。

2 有料ごみ袋の値下げで、 きれいな町田をつくる

他の地域よりも有料ごみ袋料金が高かった町田市。そこで家庭用ごみ袋は20%、少量排出事業者用ごみ袋は40%値下げを実現しました。



3 「不育症」にも対応する 「東京都不妊・不育ホット ライン」を開設

妊娠後に死産や流産を繰り返してしまう「不育症」の相談窓口を、不妊ホットラインにさらに増設。相談員への研修を実施し、きめ細やかな対応につとめます。



4 #8000番で、子どもの突然の 病気やケガも、もう安心!

小さなお子さんのいる保護者が、休日・夜間の急な子どもの病気への対処に迷った時に、小児科医師・看護師にアドバイスを受けられる電話相談窓口を設置しました。

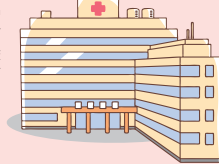


5 小中学生の 入院費・薬代の無料化を実現

入院の場合、医療費・薬代は無料、通院の場合、窓口負担は1回あたり200円のみ(初診料、薬代含む)を実現。今後は所得制限の撤廃をめざし、「三多摩格差」解消に努めます。

6 ピロリ菌だけじゃない! 東京都のがん対策を前進

地域ガン診療連携拠点病院・都認定病院を24カ所に拡大。最先端の医療機器を導入し、より質の高い医療の提供が実現できました。



7 ゲリラ豪雨の悲劇を 繰り返さない!

頻発するゲリラ豪雨被害を受け、境川、恩田川、真光寺川、鶴見川に大雨・洪水警報を知らせる電光掲示板を設置。さらに境川には遊水池と監視カメラも整備しました。



8 原発に依存しない社会へ! 都営住宅に太陽光パネル導入

都営・木曾森野アパートの屋上に、都内で初めて太陽光パネルの設置が実現。今後は、学校などの公共施設の屋上に有効活用したり、屋根貸し事業の推進なども視野に入れています。

9 節電のための 「でんき予報」を10年前に実現

福島第一原発の事故以来、電力使用量がひと目でわかる「でんき予報」が注目されました。この仕組みは、こいそ善彦が都議会で提案し、すでに2003年から始まったものです。

10 米軍ジェット機対策の防音工事 対象地域を大幅に拡大

米軍ジェット機の騒音解消のために、防音工事対象地域を80戸から4万7000戸へと大幅に拡充。さらなる騒音被害低減に向けて、必要な措置をとるよう要請しています。

ピロリ菌無料検査で、 胃がん撲滅へ前進!



石坂市長に8万人を超える署名を手渡す
こいそ善彦都議会議員(左から3人目)と公明党町田市議団

わが国では毎年12万人近くの方が胃がんと診断され、約5万人の方が亡くなっています。この胃がんの原因の95%はピロリ菌と言われており、早期にピロリ菌を除菌することで胃がんを防ぐことができます。そして実に3500万人の日本人がピロリ菌保菌者なのです。そこで、こいそ善彦(東京都議会議員・公明党町田総支部長)は、ピロリ菌の有無を調べる無料検査の実施を訴えたところ、8万人を超える賛同のご署名をいただき、本年10月より無料検査が実施されることになりました。

「ピロリ菌無料検査」が本年10月より 町田市内で始まります。まずは受診を!

ピロリ菌検査は、血液中にピロリ菌に対抗する抗体が含まれているかどうかを調べる「血液検査」で行われます。

町田市 2013年度
ピロリ菌無料検査

受診方法

町田市内の協力医療機関に直接申し込み

対象者

2013年度末で、55歳~64歳の方

※受診対象年齢は、5年に1回で一巡しますので、すべての成人の方が受けられます。
※2014年度以降の受診対象年齢は、随時決定します。※年度内に1回受診可能。

さらに慢性胃炎が確認された場合は



本年2月から健康保険が適用された 「ピロリ菌除菌」を受けられます。

慢性胃炎と確認されれば、窓口での支払いが6000円程度で済むことになりました(3割負担の場合)。除菌は胃酸を抑える薬と抗生物質を組み合わせで行い、1週間程度の服用で済みます。除菌できれば再感染の恐れは低く、胃がん発症のリスクを抑えられます。



無料検査で胃がん撲滅へ、さらに前進!

ピロリ菌除菌の保険適用が、慢性胃炎にまで拡大されたことは、胃がん撲滅に向けて、目覚ましい成果です。さらにピロリ菌の無料検査が実現すれば、無症状の人でも陽性者は医療機関で内視鏡検査の後、除菌ができるようになるため、胃がん撲滅はもっと前進すると考えています。町田市では、こいそ都議の取り組みによって、ピロリ菌の無料検査が実現しました。全国の自治体のモデルになる画期的なことであると高く評価しています。ぜひ町田市だけでなく、全国に広げてほしいと思います。

Voice Voice
声
北海道大学特任教授
浅香正博さん

安心・安全に暮らせる町田へ

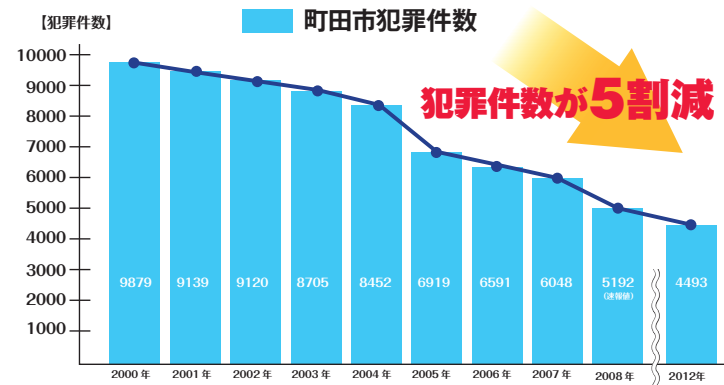
犯罪件数が8年間で半減しました!

町田市は、週刊誌で「犯罪件数が多い町」のワーストワンに選ばれ、駅前の繁華街は「西の歌舞伎町」と言われるほど、治安の悪い地域でした。

町田市民の一人として、「安心して暮らせる町にしたい!」と、まずは町田駅周辺の繁華街にスーパー防犯灯を15基設置。次に約70人の警察官が常駐する全国最大規模の大型交番を忠生に新設。さらに警察官を100人以上増員するなど、防犯対策を最重点政策として取り組んできました。地域やPTAの協力を得ながら推進してきた結果、2000年には約1万件あった犯罪件数が、2008年はなんと5192件まで半減! なお、昨年度(2012年)の犯罪件数は4493件と、さらに減少を続けています。



町田駅周辺に設置されたスーパー防犯灯



忠生に新設された大型交番

声
Voice
Voice
元忠生連合会長
田澤成雄さん

大型交番の設置で安心できる町に

忠生地域には交番があっても、非常に距離がバラけていまして、その中心となる大型交番があればと、ずっと考えていました。こいそさんが、都議会で町田の治安対策を取り上げてくれ、念願の大型交番が建ってからは、地域の防犯に大いに役立っています。

地震に強い「防災都市まちだ」へ

町田消防署の新築・移転が決定!

築50年と老朽化が指摘されてきた町田消防署の庁舎新築と移転を、こいそ善彦と公明党町田総支部は、強く訴えてきました。大地震が発生した際、消防署が倒壊すれば、消防や救急活動に支障をきたすからです。さらにこの新消防署は、大規模災害時には「防災中核拠点」となるような機能が求められます。



新・消防署建設予定地

- 「防災中核拠点」3つのポイント**
- 1 アクセス** 大規模災害時、消防や救急活動がしやすく、かつ救援物資の搬送に便利な道路に面している
 - 2 スペースの確保** 大量の支援物資を一時保管したり、平時から備蓄品を保管できるスペースが必要
 - 3 ヘリポートの設置** ドクターヘリや自衛隊ヘリの運用も視野に入れた、ヘリポートが設置できる場所

町田市は、この条件を満たす場所として、木曽山崎地区の小学校跡地の確保を約束。いよいよ新消防署の建設が決定したのです。

防災・減災のための取り組み、他にもあります!



ハイパーレスキュー隊の配備が実現!



スタンドパイプの配布で飲料水の確保を!

川崎市との水の相互融通で、行政の壁を超えた水の供給が実現!



境川に「調整池」の整備が決定!

これまで境川は時間50ミリをめざして、河道や遊水池を整備してきましたが、都県境という特殊な状況を訴えてきたところ、このたび目標整備水準を時間65ミリに引き上げ、2013年度は境川に調整池を配置するなど、具体的検討に着手することになりました。

声
Voice
Voice
専修大学名誉教授
吉家清次さん

問題意識が高く、即行動の人

災害時に、多摩川や境川の橋が崩落し、水の供給がストップした場合、水を融通しあえるのは陸続きの川崎市です。こいそさんは、そうした私の主張を取り入れて、都と県の壁を超えた「川崎市との水相互融通」を実現してくれました。問題意識が高く行動力のある、こいそさんに期待しています。